

【資料4】（仮称）札幌市エネルギービジョンの目標達成によるCO₂削減量の推計

1 エネルギービジョンの目標達成によるCO₂削減量の推計

以下の方法により、エネルギービジョンの熱エネルギーと電力に関する「平成34年度（2022年度）の目標値」「平成42年度（2030年度）の参考値」を達成することによるCO₂削減量を推計した。

①熱エネルギーの目標達成によるCO₂削減量

⇒熱エネルギー消費量の削減と、燃料の変更（灯油からガスなど）も考慮して推計した。

②電力（省エネルギー・再生可能エネルギー・分散電源）の目標達成によるCO₂削減量

⇒再生可能エネルギー・分散電源は、「発電量の増加＝電力消費量の削減」と見なして推計した。

		平成22年度から34年度までの		平成22年度から42年度までの	
		エネルギー変化量	CO ₂ 削減量	エネルギー変化量	CO ₂ 削減量
①熱エネルギー		10,600TJ	97万t-CO ₂	16,400TJ	136万t-CO ₂
②電力	省エネルギー	8.9億kWh	31万t-CO ₂	14.4億kWh	50万t-CO ₂
	再生可能エネルギー	4.5億kWh	15万t-CO ₂	9.6億kWh	33万t-CO ₂
	分散電源	2.3億kWh	8万t-CO ₂	4.5億kWh	16万t-CO ₂
合計			151万t-CO ₂		235万t-CO ₂

2 対象外の分野によるCO₂削減量と電力排出係数の変動による影響の推計

1で推計したCO₂削減量と温暖化対策推進ビジョンの削減目標を比較するため、エネルギービジョンで対象としていない分野のCO₂削減量と電力排出係数の変動による影響を推計した。

③運輸などのエネルギービジョンで対象としていない分野によるCO₂削減量

⇒運輸・廃棄物・森林吸収などは、温暖化対策推進ビジョンの目標分が削減されるとして推計した。

④電力排出係数の変動による影響

⇒平成22年度には全ての泊原子力発電所が稼働していたが、エネルギービジョンは脱原発依存社会を目指す計画であるため、目標達成時には全ての泊原発が停止しているとして、電力排出係数の変動によるCO₂排出量を推計した。（原発の稼働停止に伴う火力発電所の稼働割合増加によって、単位電力消費量あたりのCO₂排出量は増加する。）

	平成22年度から34年度までのCO ₂ 削減量	平成22年度から42年度までのCO ₂ 削減量
①・②エネルギービジョンの目標達成	151万t-CO ₂	235万t-CO ₂
③運輸などの対象外分野	96万t-CO ₂	123万t-CO ₂
④電力排出係数の変動による影響	-179万t-CO ₂	-46万t-CO ₂
合計	68万t-CO ₂	312万t-CO ₂

3 温暖化対策推進ビジョンの目標との比較

